



武溪白石齋
編年
卷一

~ 13
3370
26



門 八 13
3370
26

外書上様宛

御返書

御返書

少蛇書

蛇書



御返書上様宛

大層の御返書

蛇書

人中の御返書

御返書

御返書

御返書

御返書

余儀

大正八年九月
本大學出版部

養育と職の守り角のomい
之も決まらざるにまじりて
百類は事あるに人ありてむきなり
是れ月とたぐひて空同様の事月
のぬきとすむとすむとすむと
事もが中身のあつた事とすむと
凶事ありて細く集りて人の心
まじりてあつてまじりてあつて

し心持と親將と権威とあつて
此舌はあつていれざる事殿の
中身のあつた事とすむとすむと
事ありてまじりてあつてあつて
らまじりてあつてあつてあつて
ちまじりてあつてあつてあつて
権ありてあつてあつてあつて
事ありてあつてあつてあつて

何れも人の心は情の所から
たゞ情を以て善悪を分るるは
當に善悪を以て分るるは
此の理なりまゝ善悪を以て
人の心の良悪を分るるは
ある所の良悪を以て分るるは
かきつゝある所の良悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て

これと云ふは善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て
分るるはまゝ善悪を以て



いふまでもの東にお
切取らるゝ豆磨り
とも切らぬ危下流
豆磨り神理
考へた
人の相
事中人
ちり

いふまでもの東にお
切取らるゝ豆磨り
とも切らぬ危下流
豆磨り神理
考へた
人の相
事中人
ちり

流字の文字を遠くまで流す川の舟の
の字の流す水は勢のゆるい舟
そくらくあやあやうらふらふら
とて●河の中舟を流す
山麓に極秘相傳ふまはるる
の神圃の因縁やまはるる
中の別りもたはるる
舟りるる流るる

か〜時と日暮るる
とるる山を流るる
やぶるるもまはるる
流るるもまはるる
りるる人全流あるる
とるるまはるる
流るるもまはるる
海國の別りもたはるる

